

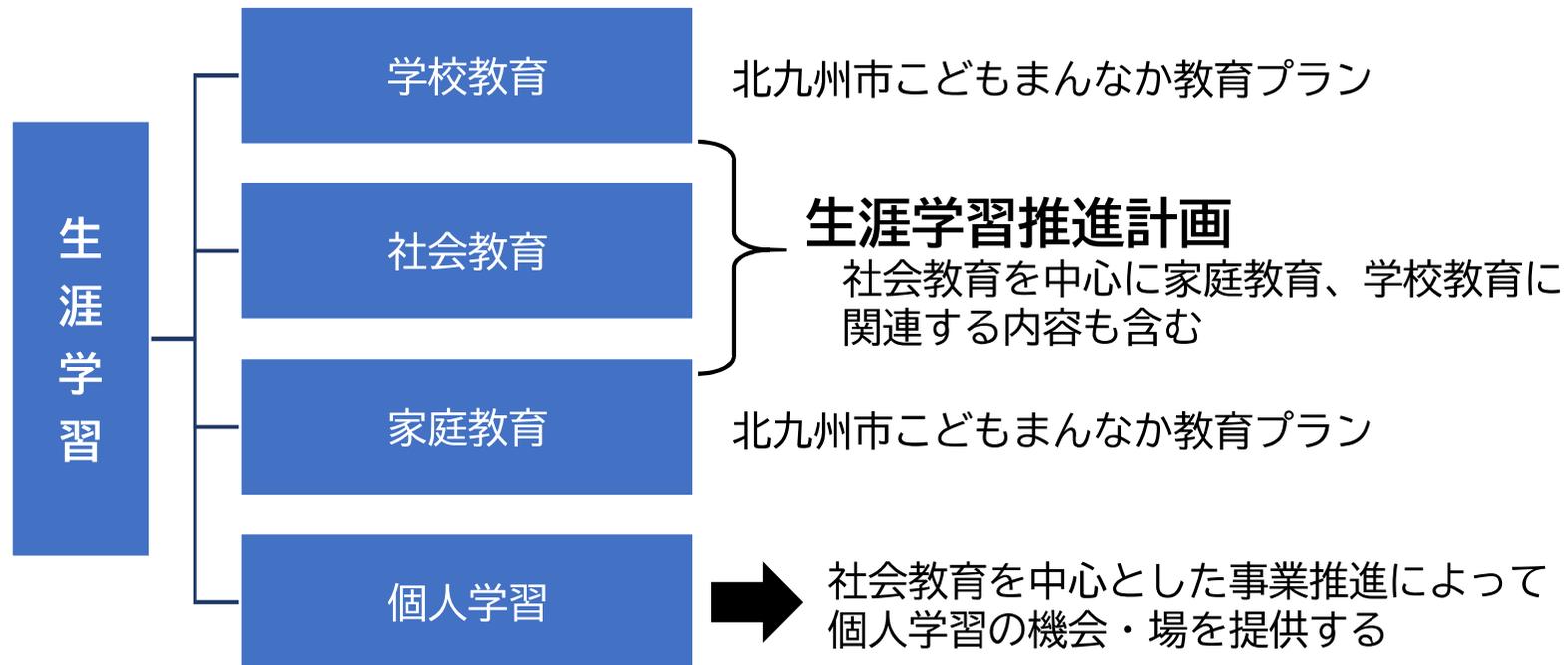
令和7年5月16日 令和7年度 第1回北九州市社会教育委員会議

次期生涯学習推進計画策定について

【計画の位置づけ】

- 北九州市基本構想・基本計画の部門計画の1つ
- 教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」

【対象分野】



【考慮すべき社会的背景】

①将来の予測が困難なVUCAの時代の到来

- ・社会の変化が速く、予測ができない時代
- ・一人ひとりが年齢を問わず、常に学びを通じて幅広い知識・技能と柔軟な思考力を更新しつづける必要

②人生100年時代におけるウェルビーイングの実現

- ・人生100年時代を迎え、長期的な視点でより良い人生を考えることが必要
- ・より良い人生には、心身の健康だけでなく、社会的に良好な状態であることが重要

③進行する人口減少・高齢化、地域コミュニティの希薄化を背景とする地域課題の顕在化、課題の多様化・複雑化

- ・既存の組織に基づいた地域コミュニティの希薄化が進行
- ・多様化・複雑化する地域課題を解決するだけでなく、課題を発生させない、課題を早期に発見できるような新たなつながりづくりが必要

【考慮すべき社会的背景】

①将来の予測が困難なVUCAの時代の到来

- ・社会の変化が速く、予測ができない時代
- ・一人ひとりが年齢を問わず、常に学びを通じて幅広い知識・技能と柔軟な思考力を更新しつづける必要

②人生100年時代におけるウェルビーイングの実現

- ・人生100年時代を迎え、長期的な視点でより良い人生を考えることが必要
- ・より良い人生には、心身の健康だけでなく、社会的に良好な状態であることが重要

③進行する人口減少・高齢化、地域コミュニティの希薄化を背景とする地域課題の顕在化、課題の多様化・複雑化

- ・既存の組織に基づいた地域コミュニティの希薄化が進行
- ・多様化・複雑化する地域課題を解決するだけでなく、課題を発生させない、課題を早期に発見できるような新たなつながりづくりが必要

【進行する社会課題】

◆低い幸福度

- ・5年間の持続的幸福度を測ることを目的とした「グローバル幸福度調査」において、22の国と地域中、日本は最下位に。（2025年4月）
- ・2025年版の世界幸福度レポートにおいて、147カ国・地域中、日本は55位。G7の中で最下位。

◆孤独・孤立化の進展

- ・「人々のつながりに関する基礎調査」では、令和3年度の調査開始以来、孤独を感じている人の割合は4～5割程度。
- ・2040年には単身世帯が43%、うち高齢者単身世帯が19%に。（国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6年推計）」）

◆既存コミュニティの弱体化

- ・従来の自治会やPTAといった既存コミュニティの加入率の低下、組織数の減少（北九州市の自治会加入率は30年間で約40%の減少）

【「学び」のニーズ】

◆いつでも、どこでも、気軽に学びたい

人生100年時代、多様なライフスタイルにも対応した、生涯を通じて学び続けられる環境が必要に。

◆変化の激しい社会に対応していきたい

不安定な社会情勢や急速な技術革新など、将来の予測が困難な時代を迎え、生活においても、ビジネスにおいても学び続けることが必要に。

◆豊かな人生を送りたい

人生100年時代を豊かに過ごすために、生涯学習を通じた学びや健康づくり、多様な人とのつながりが重要に。



【「学び」の現状】

◆身近に学ぶ機会・場がない

学習機会が充実していると感じているのは48.1%。

◆学びたいけれど時間がない

学習していない理由の75.3%は「時間がない」。

◆学んだ成果を生かす機会・場がない

学習成果を生かしているのは32.1%

◆学ぶ機会、学んだ成果を生かす機会に関する情報が少ない

生涯学習に関する情報を得ていると感じているのは36.4%

【R6,11,7社会教育委員会議グループワーク】 「今後の生涯学習・社会教育に関する主なキーワード」

<社 会>

- ◆ウェルビーイング
- ◆ジェンダー平等
- ◆レジリエンス
- ◆市民参画・社会参加
- ◆多様性
- ◆協働
- ◆寛容
- ◆不安を話せる・SOSを出せる

<学 び>

- ◆リスキリング
- ◆リカレント教育
- ◆学び合い（互いに教え・教えられる）
- ◆地域教育

<学びで重視するもの>

- ◆対話
- ◆アウトプット・実践

<子どもの学び>

- ◆子どもの活動・体験
- ◆探求心を育む
- ◆子どもの体験格差解消
- ◆子どもを通じたつながり

<シニアの学び>

- ◆シニア世代の地域デビュー

<その他>

- ◆学びを伝える広報活動

【R7,2,10 社会教育委員会議グループワーク】 「生涯学習・社会教育を推進した北九州市の未来イメージ」

(1) にぎわいと個性を活かしたまちづくり

- ・区ごとに個性が活かされた住民が自信を持つまちづくり。
- ・彩りある街や協働型ウェルビーイングを実現される。

(2) 多様性を尊重した社会

- ・北九州市全体で多様性を認め合い、外国人との共生を進める。
- ・多様な主体による社会運営を目指す。
- ・学習を通じてコンパッションを育み、互いを受け入れる街づくりの推進。

(3) コミュニティの構築と支え合い

- ・ゆるやかなつながりを維持しながら、住民が主体となる活動を応援する。

(4) 選択と創造の自由を重視した社会

- ・個人が自分のやりたいことを選択でき、それを許容する社会を目指す。
- ・予測困難な状況にも柔軟に対応できる創造的な当事者を支援する。

【R7,2,10 有識者会議における次期推進計画に対する意見】

(1) 具体的な指標よりも方向性を重視する

- ・社会の変動が激しい時代において、柔軟性を持った計画が必要。
- ・具体的な指標を設定するよりも羅針盤のように大きな方向性や理念を示すことが重要。

(2) 施策の柱を明確にする

「ひとづくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」を基軸とし、それぞれがどのように関連し合い、相互に補完し合うかを考慮する

(3) 社会教育士等の活躍を促進する

社会教育士や社会教育主事講習を受けた人々が、地域社会で積極的に活動できる場を提供し、その専門性を地域づくりに活かす体制を整える。

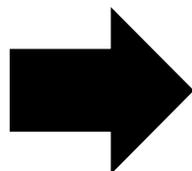
(4) KPIの再検討と多面的評価の検討

- ・成果を評価するためのKPIを見直し、定量的な指標だけでなく、質的な評価も取り入れる。
- ・学びの深さや行動変容を測る新たな指標の導入を検討する。

【次期推進計画策定の方向性】

有識者会議の意見等を踏まえ、次期推進計画策定の方向性を以下のように定める。

- 社会の変化が激しい時代を迎え、個別の指標を設ける従来の計画では時代の変化への対応が困難。
- 変化が激しい時代だからこそ、羅針盤のように理念や大きな方向性を示すことが重要。



目指す未来へ向けた生涯学習行政の方向性を示す

「北九州市生涯学習ビジョン」を策定する

- 2040年までのおおむね15年間（2026～2040年）を対象に、北九州市の未来へ向けた生涯学習行政の理念・方向性を示す。
- 理念・方向性を示した上で、本計画では15年間のうち最初の5年間の取り組みを中心に策定する。
- ビジョンは2040年までの15年間を対象としながらも、おおむね5年おきに見直しを図る。

<次期推進計画が目指すまちの未来>

学びと活動を通じて、

市民一人ひとり・地域コミュニティ全体の力が引き出され、

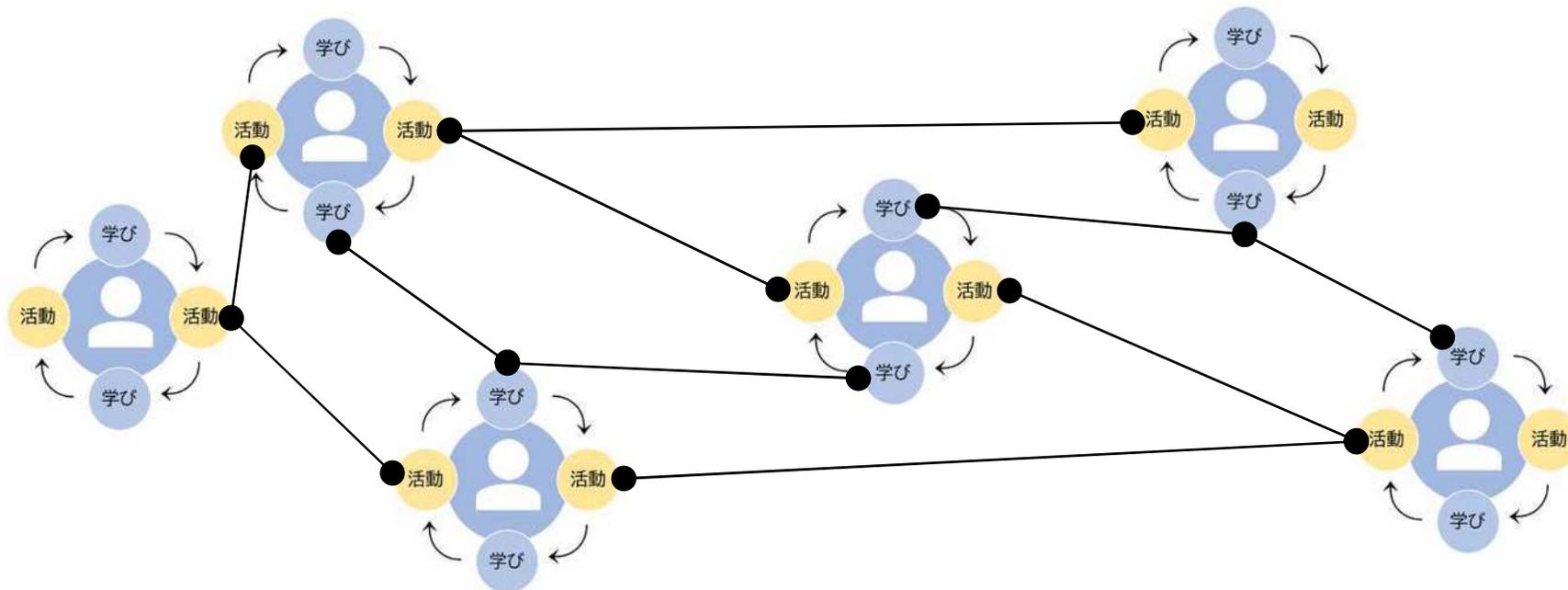
「彩り」にあふれ、「安らぎ」が満ちるまち

<次期推進計画(ビジョン)のコンセプト>

- “学び” と “活動” による関係づくりを通じた多様なコミュニティの醸成
- ウェルビーイングの深化を通じた北九州市の未来を創る人材の育成

<次期推進計画のコンセプト①>

“学び”と“活動”による多様なつながりを通じたコミュニティの醸成



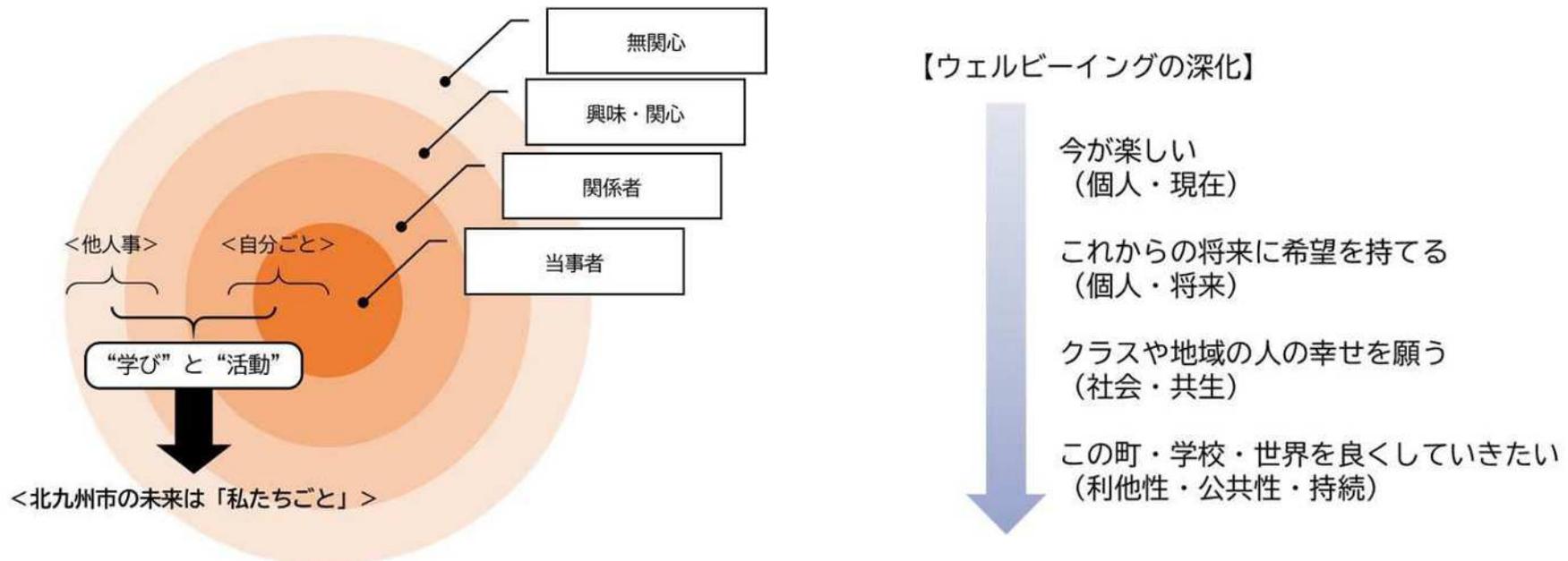
◆地域コミュニティの希薄化や孤独・孤立が社会問題とされる中、“学び”と“活動”による多様なつながりが、持続可能な地域社会を支えていく。

◆地域課題の解決だけでなく、課題を発生させない、課題を早期発見できる地域づくりには、その基盤となるつながりが必要不可欠。

※「コミュニティ」とは、特定の組織や活動団体を基盤にしたものではなく、人と人とのつながりの総体を指す。「地域コミュニティ」とは、おおむね小学校区のエリアを指す。（人々の結節点となる“学び”と“活動”を生み出す市民センターが重要な役割を果たす。）

<次期推進計画のコンセプト②>

ウェルビーイングの深化を通じた北九州市の未来を創る人材の育成



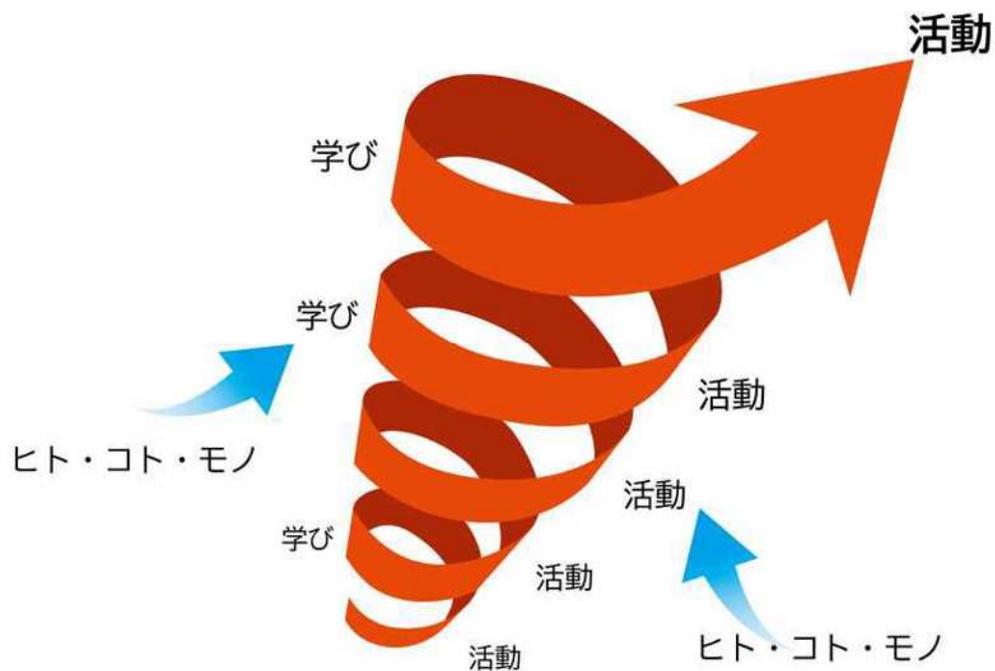
※ “学び” や “活動” を通じて、何かを知り、誰かとつながることで、これまでの「知らない・誰か」のことが、私にも関係や責任がある「私たちごと」へと変化。

※ “学び” や “活動” を通じた「私たちごと」化は、個人・現在のウェルビーイングを、未来へ、社会へと深化し、北九州市の未来を創る人材を育成。

<次期推進計画の基本方針①>

自分らしく、生き生きと暮らすことができる

“学び”と“活動”の機会の創出



- ウェルビーイングの向上のための、多様な学びの場の確保
- 多様な学びを提供する環境の整備
- “学び”を生かす活動の場の創出
- “学び”を通じたつながりづくりのための支援

※ “学び”と“活動”の循環は、周囲のヒト（地域の人や関わる人）・コト（地域の暮らしや活動）・モノ（地域の事物や歴史・伝統）を生かしながら、学びが広がり・深まり、よりよい“学び”や“活動”へスパイラルアップしていく。

<キーワード>

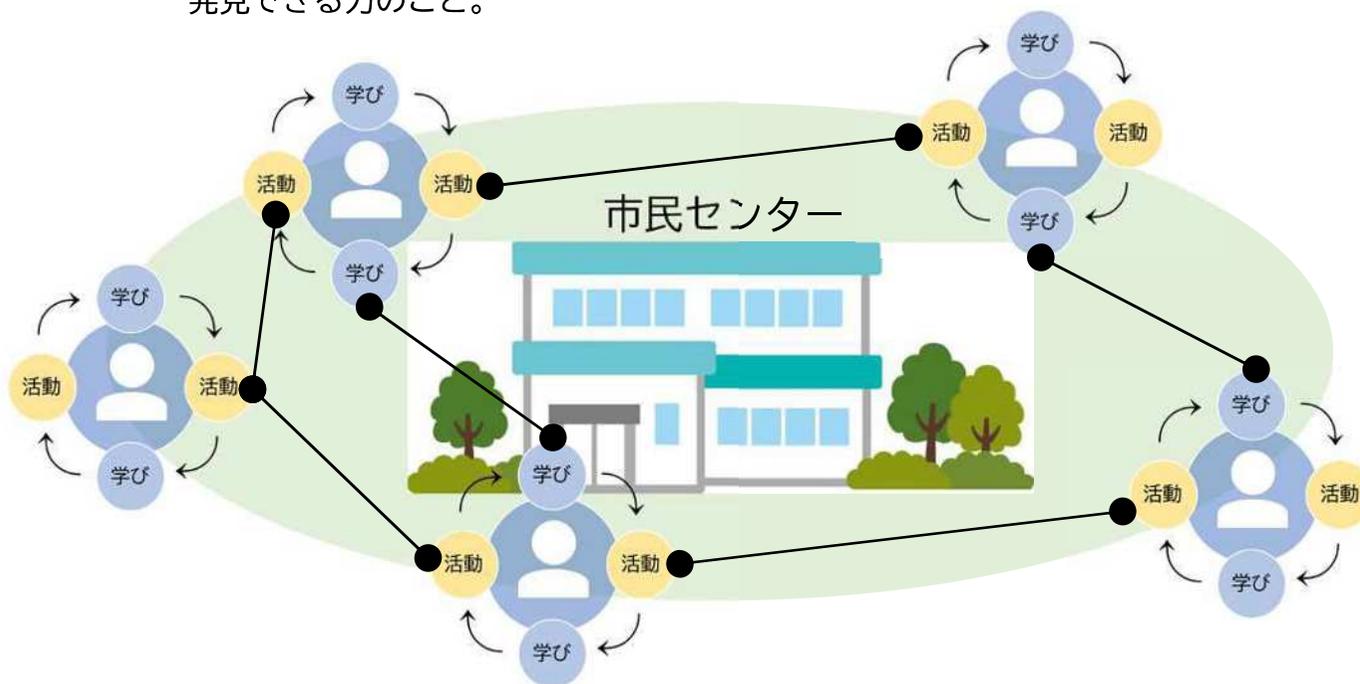
ウェルビーイング、健康寿命
レジリエンス、孤独・孤立
社会的処方

<次期推進計画の基本方針②>

持続可能な地域づくりに向けた地域力の育成

- 地域づくり・人づくりのための市民センター事業の推進
- 社会関係資本の視点に基づいた事業を通じた地域力の育成
- “学び”と“活動”を通じたつながりづくり・コミュニティの醸成の推進
- 多様な世代がつどい・学ぶ機会の創出

※「地域力」とは、地域課題の解決だけでなく、課題を発生させない、課題を早期発見できる力のこと。



<キーワード>

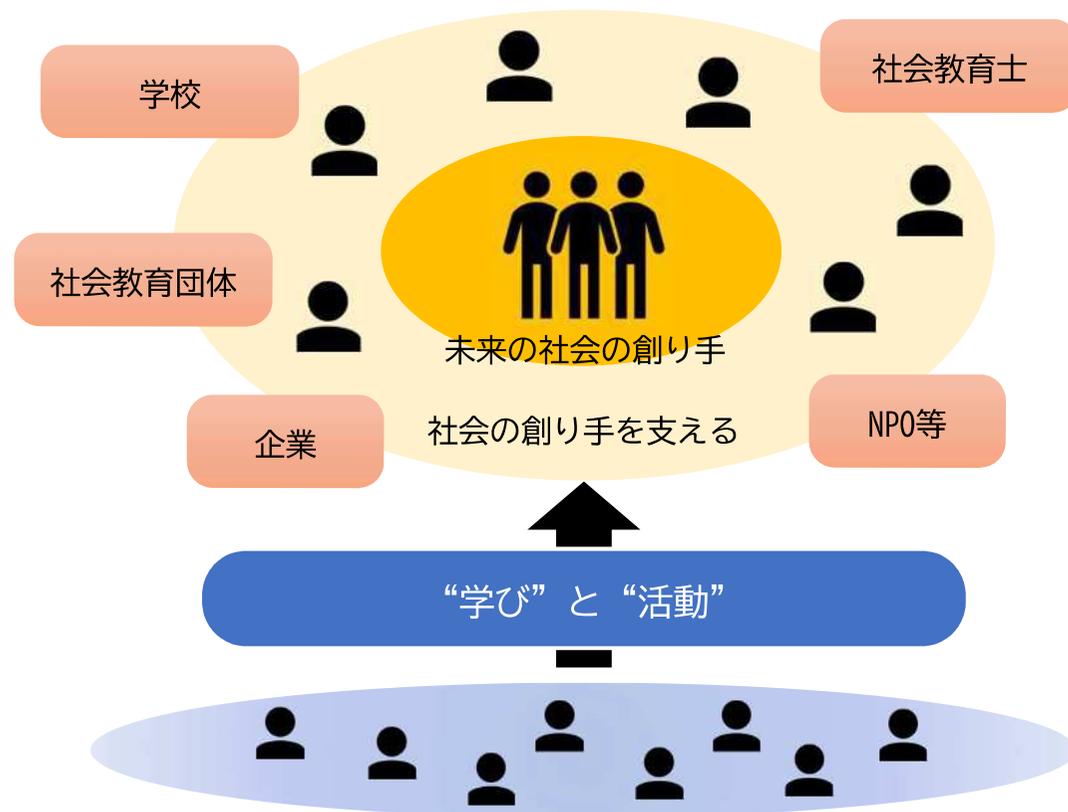
市民センター
人とのつながり、社会とのかかわり
こどもまんなか、多世代交流
地域全体のウェルビーイング
社会関係資本※

※社会関係資本（ソーシャルキャピタル）
社会的な繋がり（ネットワーク）とそこから生まれる規範・信頼）

<次期推進計画の基本方針③>

未来の社会の創り手を育て・支える人材の育成

- 未来の社会の創り手となる多様な人材の育成
- “学び”と“活動”を通じて、地域で未来の社会の創り手を育成・支援する人材の育成
- 社会教育団体や社会教育士等の地域の学びを支え・促進する団体等との連携強化



<キーワード>

未来の社会の創り手・支援者の育成
社会教育士
多様な主体との連携
学校（コミュニティ・スクール）
地域デビュー

【グループでの意見交換】

次期推進計画の説明を受けて、以下の項目を参考に各グループで意見交換をお願いします。

- ・ 説明を受けた全体的な感想
- ・ 次期推進計画策定の方向性について
- ・ 次期推進計画が目指すまちの未来について
- ・ 次期推進計画のコンセプトについて
- ・ 次期推進計画の基本方針について

【社会的背景】

- VUCAの時代の到来
- 人生100年時代の到来
- 地域コミュニティの衰退、課題の多様化・顕在化

【進行する社会課題】

- 低い幸福度
22か国中最下位（2025年ハーバード大学調査）
- 孤独・孤立化の進展
・4～5割の人が孤独を感じる社会（人々のつながりに関する基礎調査）
・2040年、単身世帯は約40%に
- 既存コミュニティの弱体化
自治会・町内会の加入率の低下（北九州市では30年で約40%減）、PTAの弱体化

【「学び」のニーズ】

- いつでも、どこでも、気軽に学びたい
生涯を通じて学び続けられる環境を
- 変化の激しい社会に対応していきたい
キャリアアップ、スキルアップのための学びの機会を
- 豊かな人生を送りたい
学びや健康づくり、多様な人とつながる機会を

【「学び」の現状】

- 身近に学ぶ機会・場がない
学習機会が充実していると感じているのは48.1%
- 学びたいけれど時間がない
学習していない理由の75.3%は「時間がない」
- 学んだ成果を生かす機会・場がない
学習成果を生かしているのは32.1%
- 学ぶ機会、学んだ成果を生かす機会に関する情報が少ない
生涯学習に関する情報を得ていると感じているのは36.4%

※R6市政モニターアンケートより

【目指す未来】

学びと活動を通じて、市民一人ひとり
・地域コミュニティ全体の力が引き出され、
「彩り」にあふれ、「安らぎ」が満ちるまち

【変革点】

学びを身近に
学びと活動で幸せに
「知らない・誰か」のことを
「私たちごと」に

【次期計画のポイント】

- ①地域コミュニティビジョンと歩調を合わせた長期的な視点での策定
- ②企業、NPO、学生、社会教育士等の多様な力を生かした学びと活動の推進
- ③AIやオンラインを活用した生涯を通じて学び続けられる仕組みづくり

次期生涯学習 推進計画

【計画のコンセプト】

“学び”と“活動”による
関係作りを通じた
多様なコミュニティの醸成

ウェルビーイングの深化を通じた
北九州市の未来を
創る人材の育成

【計画の基本方針】

自分らしく、生き生きと
暮らすことができる
“学び”と“活動”の機会の
創出の推進

持続可能な地域づくりに
向けた地域力の育成

未来の社会の創り手を
育て・支える人材の育成